

# 令和7年度 第2回学生懇談会

「お茶大の未来」に関する意見交換

日時：令和7年12月3日（水）16：45 ～ 17：30

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

1. 2075年（50年後）、お茶の水女子大学はどのようなになっているとあなたは想像しますか？大学の未来を一言で表現してください。また、なぜそう思ったか、理由も教えてください。

番号	質問事項
1	<p>合併/統合。</p> <p>50年後のお茶の水女子大学は、現在のような独立した大学というよりは、他大学や研究機関と連携、もしくは統合された形で存在していると思う。少子化や財政面、女子大の人気低下等の課題から、大学が単独で存続するのは難しくなり、学問や人材育成の質を維持するために連合的な形をとると考える。</p>
2	<p>「万人受けではなく、特定の人々への深い価値を持つ大学」になっていると考えております。この予想自体は、現在とかけ離れた状態としてではなく、むしろそれらがより加速化した状態として捉えております。勉学に真面目であることが恥ずかしいこととされたり、その真面目さを利用されたりしない環境は、私にとっては非常に居心地の良い環境でした。要領よく、楽に物事を達成したいと考える大学生も多いとは思いますが、お茶の水女子大学の価値観はそれらとは異なっていたと思います。今後50年の少子化の中で、大学はより一層差異化を迫られると思われるのに加え、女性を取り巻く状況も変化し、女性だからといって学生となる皆が似たような経験・価値観を持つとは限らず、女性内分化もまた今とは別の形で進むでしょう。今後も万人受けではないかもしれませんが、確かに誰かには求められている価値を作り出していくのではないかと考えております。</p>
3	<p>社会の多分野で活躍する女性を輩出する拠点になっていると思います。</p> <p>お茶の水女子大学は、国立の女子大学として女性教育の中核を担ってきたという伝統と歴史があり、これは今後も大学の強みになると思います。そのため、2075年にはお茶大の在学生や卒業生が、政治・経済・科学・芸術などあらゆる分野でリーダーシップを発揮し、社会のジェンダー平等化に貢献しているのではないかと思います。</p>
4	<p>世界で唯一の女子大学になっている。</p> <p>ジェンダーの議論の高まりなどによって女子大学の必要性が見直されている現代だが、お茶の水女子大学は、女子大学にしか成し得ない形の学生の育成と研究の推進をしていると思うからです。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

1. 2075年（50年後）、お茶の水女子大学はどのようなになっているとあなたは想像しますか？大学の未来を一言で表現してください。また、なぜそう思ったか、理由も教えてください。

番号	質問事項
5	文理融合的な方法で社会課題に取り組み、その中で活弁な教育・研究活動を展開する大学になっていると思います。 理由：総合大学として文教育学部、理学部、生活科学部の3学部により、幅広い領域の学問や社会事象への取り組みを長い歴史をもって積み重ねてきており、共創工学部の設置によってこれまでの成果が活かされた創造的な成果物としてそれらを社会に還元する取り組みが本格化してきているから。
6	時代の変化に合わせて、学部・学科の再編や新設など形を変えながらも、理念は一貫した教育が行われていると思います。ただ学べる分野を広げるのではなく、女子学生が求める学びの環境を提供することを大事にする大学だと思っています。
7	知性と多様性の国際シンクタンク 日本の女子大学という枠を超え、教育プログラムやカリキュラムが国際的に評価され、他の国の大学や企業に輸出される存在になると考える。特に、女性のライフイベントと研究・キャリアの両立に関する知見は、世界標準となっていると思う。
8	現在よりも国際色豊かになると想像する。現在日本は少子化問題を抱えているため、未来の日本の学生数は現在よりも少なくなると予想する。そのため多様な国の学生を受け入れ、国際色豊かな授業が展開されるのではないかと想像する。世界の中でも多様性とジェンダー研究に力を入れた大学になるのではないかと考えている。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

1. 2075年（50年後）、お茶の水女子大学はどのようなになっているとあなたは想像しますか？大学の未来を一言で表現してください。また、なぜそう思ったか、理由も教えてください。

番号	質問事項
9	共学化していると思う。女性に対する不当な差別や偏見が減少するにつれて、国立女子大の必要性も低下していくのではないかと考えられる。50年後には女子大という特別な枠組みを用意しておく必要などなくなっているとよいなという希望も込めて、共学化しているのではないかと感じている。
10	女性の知と声を世界へ届ける女子大 近年、少子化の影響で、多くの女子大は共学化を選択していますが、ジェンダーギャップ解消の見通しが立っていない現代において、女性が自分の可能性を最大限に伸ばし、挑戦できる学びの場は引き続き必要だと考えます。 さらに技術革新が進み、世界の境界がより曖昧になっていく未来だからこそ、異なる価値観を理解し、他者と協働する力の重要性はますます高まります。 お茶大は女性の知性をと声を原動力に、様々な国や地域と結びつきながら新たな価値を創出し続ける、独自の存在感を持つ女子大学へと進化していると想像します。
11	「更なる多様化」 今ある研究分野がさらに深まっていくだけでなく、共創工学部の研究も50年の蓄積で盤石の体制を取れるようになり、お茶大で行われる研究の幅が広がっていくと思われる。 研究の分野が広がると、その分お茶大に興味関心を持つ人材の幅も増えるため、多様化が進むのではないかと。
12	多様化。近年は県や国をまたいだ長距離移動や通信がますます手軽になっていることに加え、トランスジェンダー学生の受け入れを2020年度から開始したことなどにより、様々な背景を持つ学生が今よりも更に増えると思ったから。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

1. 2075年（50年後）、お茶の水女子大学はどのようなになっているとあなたは想像しますか？大学の未来を一言で表現してください。また、なぜそう思ったか、理由も教えてください。

番号	質問事項
13	<p>「未来の可能性を育てる“共創拠点”」</p> <p>50年後の社会は、AIなどの技術発展、グローバル化、価値観の多様化が今以上に進み、誰もが常に学び続けることが求められると考える。そうした社会で大学は世代・国籍・専門を超えて互いに学び合い、協働し、新しい価値を生み出す「共創」の場へと変化しているのではないだろうか。</p> <p>お茶の水女子大学は、少人数教育や学び手への丁寧な支援を強みとしてきた歴史があり、その延長線上で、学生と教員、企業、地域、世界各国の学び手が交わり、新たな知や社会的価値を生み出す拠点として進化していると考えた。</p> <p>女子大学で培われた「他者の力を尊重し、協力して未来を切り拓く力」は、50年後にはより開かれた形で社会に提供され、国内外の様々な人材が集う場になっていると想像する。そこで育った人々が、専門性と共感力をもって未来の社会課題に挑んでいてほしい——そんな期待も込めて、「共創拠点」という言葉を選んだ。</p>
14	<p>女性の社会参画実現に向けて中心を担う大学。現在すでにお茶の水女子大学はジェンダー研究が活発であり、女性リーダー育成に向けた取り組みも多々行われている。しかし、現実には世界全体のジェンダーギャップが解消され完全な男女平等が実現するのは134年後（2158年）と言われているそうだ。ジェンダーギャップ指数が極めて低い日本において、50年後もなお存在するであろうジェンダーギャップに向けて、いかにして解消していくべきか、学術的視点からお茶の水女子大学を筆頭に研究が進められていくと思う。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 2. お茶の水女子大学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げていますが、夢の実現にあたって何をすべきとあなたは考えますか？

番号	質問事項
1	夢の実現にあたっては、学ぶ場として、また生活の拠点として、学生が過ごしやすく学びやすい環境を整えるべきだと考える。学問に打ち込むためには、安心して生活できる基盤が欠かせない。そのため、大学全体でサポート体制を整え、施設をより充実させることに加え、研究を続けたい学生の意欲を後押しするために、さらなる奨学金制度や大学院授業料免除などの制度を導入することが重要だと思う。
2	夢の実現にあたって学生個人としてすべきことは、「一歩踏み出すこと」であると考えております。しかし「一歩踏み出すこと」を可能にするのは、個人としての努力、心構え以上に、「環境」の力が大きいように思われます。 よって、夢の実現の場であるという大学側の視座に立った場合には、「安全な場所を提供する」ことが特に有効であると感じております。「安全な環境」というのは、絶対の成功が確約されたような過保護な環境を指しているのではなく、「新たに挑戦する活動そのものに集中できる、その他に煩わされない環境」を意図しております。とりわけ若い女性は、本人に「やりたい」という意志があっても、「女性」というだけでよりリスクにさらされる現状がある以上、防衛的な意識・行動が求められるように思われます。挑戦しないこと、深入りしないことが、無意識のうちに合理的な判断となってしまいます。私自身がお茶の水女子大学において、とりわけ恋愛関係といった側面で発生する人間関係の複雑性が格段に縮約されている環境の恩恵を受け、余計なことを心配せずにやりたいことに挑戦できた、という認識を持つことから、女性が無意識にしている防衛的選択の相対化や、女性たちにとっての「安全な場所」の絶え間ない追求が必要であると考えます。
3	まずは、自分が叶えたいと思える夢を見つけるために、さまざまなことを学び、経験して、自分の世界を広げることが重要だと思います。そのうえで、夢の実現のために必要な知識やスキル、経験を逆算して考え、段階的に目標を立てて努力を重ねていくべきだと思います。
4	奨学金の充実と子育て支援が非常に重要であると考えています。奨学金については学部生対象については比較的充実しており、私自身入学前の予約型奨学金と成績優秀者対象の奨学金には大変お世話になりました。しかし、博士前期課程・後期課程対象の奨学金については、親に扶養される立場である学部生よりも博士課程制の金銭的援助が重要なことを鑑みても、種類・支給人数・金額ともにより充足させる必要があると考えており、現存する奨学金についても家計基準を和らげて良いのではないかと考えています。例えば、東京大学には「卓越大学院」という奨学金制度が存在し、私にはそちらの方が大学院進学者のニーズを満たしているように思えます。大学院進学を妨げるものの大きな理由が金銭的負担であり、奨学金のさらなる充足によってお茶の水女子大学の博士課程生が増加し研究活動を促進できると考えます。 子育て支援の充実はお茶の水女子大学の特色であり、いずみナーサリーの取り組みやナーサリー利用学生への金銭的負担の軽減も素晴らしい制度だと思っています。ぜひ今後もその取り組みを継続していただき、利用できる学生も増加することを願っています。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

2. お茶の水女子大学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げていますが、夢の実現にあたって何をすべきとあなたは考えますか？

番号	質問事項
5	様々な進路の選択肢の提示や幅広い学びの機会の提供、学内にとどまらず関心のあることを追求・探究できるように外部機関との連携強化、社会で活躍する女性人材（ロールモデル）による講演や懇談の場を設けることが重要だと思います。また、女性参入の少ない分野の学問（例えば工学）の質の高い教育や学びの機会の提供、専門的な研究に耐えられる設備や環境の提供、同じ分野の学びを望む同志との連帯感作りも、お茶の水女子大学がひたむきな学びの実践の場であるためには重要だと思います。
6	夢の実現のためにする必要があること・するのが望ましいことを、積極的な情報収集を踏まえて把握し、これから自分がいつ何をすべきかを計画して、適宜修正・追加しながら、今すべきことから着実に取り組んでいくことが重要だと考えます。
7	チャレンジを評価する制度を制定する。起業やボランティアなどの学生の新しいアイデアが失敗に終わっても、その経験を高く評価する制度を導入する。失敗を恐れずに挑戦できる心理的安全性の高い環境が、学生の創造性とリスクテイクを促し、真に困難な夢の実現を可能にすると考えます。
8	様々な背景を持つ学生が学びやすい環境を整える必要があると考える。例えば経済的理由で学業に時間を割くことが困難である学生のために奨学金の制度を拡充させることや、育児をしながら大学に通う学生の支援などが考えられる。その他にも精神的に支える必要がある学生のサポートの拡充も必要であると考えます。また個人的に自分の夢が何かわからなくなってしまうことが多いので、夢を見つけられる機会を増やすべきだと考える。



## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

2. お茶の水女子大学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げていますが、夢の実現にあたって何をすべきとあなたは考えますか？

番号	質問事項
9	夢の実現を阻まれているのは若年層よりもむしろ、結婚・出産を経験した女性たちや、結婚適齢期を迎え社会的なプレッシャーに直面している女性たちではないかと思う。高校卒業直後の学生だけでなく、キャリアを経て再び学びたい女性への柔軟な支援を充実させることが望まれると考えられる。
10	夢の実現にあたって必要なのは「多様な背景を持つ女性たちが、いつでも学べる環境を整えること」だと考えます。 お茶大には10代・20代の学生だけでなく、社会経験や家庭での役割を経て学び直しに挑む女性も在籍しています。私自身、同じコースでリスキリングに取り組む学生の方々が真剣に学ぶ姿に触れ、“学ぶ意欲”があれば人生のどの段階からでも夢に向かって進めるということを実感しております。 その意味で、リスキリングや学び直しを支える制度(柔軟な履修、オンラインとの併用、相談体制や支援など)を拡充することは、全ての女性の夢の実現を後押しする重要な土台になると考えます。 こうした「いつでも学べる女子大学」としての強みを伸ばしていくことこそが、夢の実現、お茶大のミッションの実現に寄与すると考えます。
11	もっと積極的に受験生に対してアプローチをする。 自分が受験生だった頃の体感だが、大学選びの際に「女子大だから」という理由で選択肢から外されてしまうことが多かったため、説得力のある女子大で学ぶ意味を大学側からさらに発信していく必要があるのではないか。
12	卒業研究等を通して、専門分野に関係する知識・技能を身につけること。身につけた知識や技能を他の分野にも応用していくこと。



## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

2. お茶の水女子大学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げていますが、夢の実現にあたって何をすべきとあなたは考えますか？

番号	質問事項
13	<p>夢の実現にあたって大切なのは、自らの価値を他者との関わりの中で磨き続けていくことだ。夢は個人の努力だけでなく、仲間からの刺激や教員の支え、社会との繋がりによって現実近づいていく。</p> <p>具体的には、以下の3点が重要だと考える。</p> <p>① 自分の関心を深く掘り下げ、主体的に学ぶこと 夢の核となる問いや関心は、他でもない自分自身が探り当てるものだ。講義や研究への熱心な参加はもちろん、自らの耳目を研ぎ澄ませ身体性を伴う体験を通じて興味を深めていくことが、将来を豊かなものにする糧になると考える。</p> <p>② 異なる価値観の人と出会い、対話すること 夢は他者との対話や協働によって広がり、より具体的になる。多様な背景を持つ学生同士が議論できる環境は、視野を広げ、進みたい道を自ら描く力を育むのではないだろうか。</p> <p>③ 失敗を恐れず、挑戦し続けること 挑戦には、失敗や迷いがつきものだが、その経験こそが夢を現実へと近づける推進力になる。失敗しても再び挑める環境があることが重要である。</p> <p>お茶の水女子大学では、こうした学び・対話・挑戦が可能な環境であり、学ぶ意欲のあるすべての女性が自分なりの夢を形にしていける場であると捉えている。</p>
14	<p>お茶の水女子大学で勉学に励むと同時に、夢の実現に向けて外部機関と協力した活動も開催するべきだと思う。お茶の水女子大学では少人数で質の高い教育を受けることができるが、それを行動実践に移す機会が少ないと感じる。お茶の水女子大学で培った知識を活かす場として、自分の夢に関連する課外活動や他大学との共同企画に積極的に携わることで、実践経験を積むことができ、より勉学向上が促進されるのではないだろうか。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 3. お茶の水女子大学のこれからについて、あなたは何を期待していますか？またそのためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？

番号	質問事項
1	<p>これからのお茶大には、学生にとってより学びやすく、心身ともに充実できる環境づくりを期待している。以下に述べる内容はあくまで理想であり、実現が容易でないことも、お茶大単体でなんとかできるものではないことも承知しているが、海外の研究機関のように、大学院の学費免除制度やアシスタントシップ（学費免除＋月給が支給）、スカラシップ等の経済的サポート制度を導入し、研究に専念できる体制を整えてほしい。また、大学構内に学生が気軽に運動できる場所（ジム）などを設け、学びと健康の両面から学生生活を支える環境を充実させてほしい。学生がより安心して自らの可能性を伸ばせる大学となるためには、こうした取り組みが不可欠であると考えます。</p>
2	<p>大学の環境と、これから出ていく先の社会とでどの程度連続性を持つのか、そして、逆にどのような断絶をもたらすのか、それらを整理して受け止めるモラトリウムが設けられることを期待しております。大学において社会、特にジェンダーに関わる社会的現象を批判的に捉える視座を手にいれたり、何でも挑戦してみる主体性も獲得したりできたと感じております。一方で、知ってしまったこと、身につけてしまったことで、現実の難しさをより一層感じるようになるため、社会に出ていくことに不安を覚えることが多いです。お茶の水女子大学では近年他の大学との協働に尽力しているため、そういった形で特に男子学生との交流を持つことがこれらの不安に対する一つの解決策になると感じております。また、そこでの体験や感じたことを学生個人の経験として終えるのではなく、他のお茶の水女子大学の学生間で共有し、考えていけたらより理想的なのではないかと感じました。</p>
3	<p>少子化などにより、大学運営はますます困難になっていると思います。しかし、そうした中でも、お茶大のポリシーを大切にしつつ、時代や社会の変化に合わせた大学運営をしていくことを期待します。そのためには、他国立大学・他女子大学との連携を強化させるとともに、変化の激しい現代社会において求められる能力・資質をも養えるように学びの在り方を考え続け、国立の女子大学として存続する意義を社会に呈示し続ける必要があると思います。</p>
4	<p>理系分野の学生の育成はお茶の水女子大学のこれからの欠かせない要素だと考えています。私は文系の学生ですが、他大学の理系分野の女子学生の少なさやそれに由来するアカデミックハラスメントの話を目にします。共学の大学の理系分野の女子学生の増加に向けたアフターマティブアクションに対する批判も耳にするため、理系分野の女子学生が安心して学べる環境はお茶の水女子大学の強みです。共創工学部の創設など、理系分野における取り組みが重視されているように感じますが、ぜひ、女子大学にしかできない形で、理系分野の女子学生の学びを推進していただきたいと思っています。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 3. お茶の水女子大学のこれからについて、あなたは何を期待していますか？またそのためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？

番号	質問事項
5	<p>大学の授業や実習で学べる内容について、大学としての総合的なバランスは維持しつつ、さらに各学科内の専門分野のバランスの良さや、学科として扱える研究対象の充実度を高めることを期待します。学内で多様な研究活動が展開できる様な環境作りは、学生や教員にとって魅力的な教育・研究機関であり続けるためには重要だと思います。</p> <p>その為には、研究費・人件費への投資に力を入れられるような取り組みや、学内での研究やプロジェクトにおける外部資金獲得の援助など、資金面での支援が必要だと思います。また、少規模であるため細やかな指導を受けたり、充実度の高い自立した学び・研究をしたりできるお茶の水女子大学の強みや、それにより得られた成果物の発信に注力した取り組みが必要だと思います。</p>
6	<p>女子大離れが進んでいるとも言われていますが、情報科学科では、女性割合の高い学習環境を求めているお茶の水女子大学を選択した学生が多いです。他の大学にはない、女子学生が学びたいことを学びやすい環境で学べる場が提供されることを期待します。</p> <p>また、女子大ならではの特徴として少人数制や居心地の良さが謳われますが、これらは進学先を決める際に向き・不向きを判断する材料として扱われがちだと思います。これらの特徴が具体的にどのように学生の成長に資するのかを伝え、学びや成長に意欲的な学生に魅力を感じてもらい取り組みが必要だと思います。さらに、卒業生の少なさが就職活動で不利ではないかという懸念や、女子大学の中で経験を積んでも社会に出てから男性が多い中で活躍できるのかという不安を払拭する働きかけも必要だと思います。</p>
7	<p>大学院の国際的な魅力向上と研究環境の整備 世界中から優秀な女性研究者を呼び込み共に研究していくための、手厚い奨学金制度や研究支援体制の強化。例えば、ライフイベントとの両立支援の充実など。</p>
8	<p>学生一人ひとりの夢の実現を実現するだけでなく併走する大学であるということを期待する。学生の研究活動、専門性を支援するだけでなく、将来のそれぞれの夢を実現するためにはどのようなことが必要であるかを学生と大学ともに考え、寄り添ってもらえるような大学であってほしいと思う。ロールモデルとなるような女性の活躍の紹介や学生の個別のキャリア相談の拡充、起業支援、語学学習支援を行うことが必要であると考えている。少人数制をとっているお茶の水女子大学であるからこそ実現できる内容であると考えている。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 3. お茶の水女子大学のこれからについて、あなたは何を期待していますか？またそのためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？

番号	質問事項
9	<p>学生だけでなく地域の女性にも開かれた学びの場としての役割をさらに果たしてほしいと考える。もちろん治安面への配慮は必要だが、公開セミナーの実施や憩いの場としての機能の充実、地域団体への施設貸出などを通じ、地域全体の女性を支援することは、国立大学の意義の一つでもあるのではないだろうか。</p>
10	<p>「多様な背景を持つ全ての女性が学べる環境」と「小規模大学ならではの丁寧な学び」の両立を期待します。お茶大が掲げるミッションにも繋がりますが、学内には社会人経験を経て学び直しに挑む学生や、トランスジェンダーの学生など、幅広い背景と価値観を持つ女性が集まっています。こうした多様性はお茶大の大きな強みだと感じています。同時に、お茶大の魅力の一つである、小規模であることも、これからの時代にこそ大切にしてほしいと要素だと考えます。小規模だからこそ生まれる、丁寧な授業や教員との距離の近さ、学生同士が互いに協力しあえる柔らかな雰囲気は、大規模大学ではなかなか得難いものです。私はお茶大が「いつでも、誰でも学べる場」であり続けること、そして「一人ひとりに寄り添う女子大学」としてその価値をさらに発揮していくことを期待しています。</p>
11	<p>女性の社会進出をさらに加速させること。共創工学部での教育は、工学系やその他本当に様々な分野にお茶大生が進出できるようになるのではないかと感じているため、今お茶大の卒業生がそこまで多くない分野を目指す学生にもある程度のバックアップがあると長期的に見てメリットが大きいのではないかと。</p>
12	<p>多様な学生の取り込みと研究環境のさらなる向上。前者は、特に首都圏外の中高生へ向けた広報活動の強化が必要だと思う。後者は、手軽にアクセスできる論文の数や種類を増やすなど、研究支援の充実のさらなる充実に向けた取り組みが必要だと思う。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 3. お茶の水女子大学のこれからについて、あなたは何を期待していますか？またそのためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？

番号	質問事項
13	<p>多様な女性が、自分の人生を主体的にデザインできる大学であり続けてほしい。そのためには、ロールモデルと出会える機会づくり、地域や企業、国外との連携、多様な背景の学び手を支える制度など、学びの選択肢や社会との接点を広げる取り組みが必要だと考える。</p> <p>（また、周囲の学生からは以下のような声も耳にする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートできる機会を多く設けてほしい。社会に出てからも通用する自己主張力を鍛えたい。</li> <li>・LA科目の時間割固まっていることで、履修が制限されてしまっているのを改善してほしい。</li> <li>・図書館の蔵書数を増やしてほしい。</li> <li>・休学するとみがかずば奨学金を受け取れなくなる理由が理解できない。</li> <li>・学内wifiの電波が弱く不便だと感じることもある。</li> </ul>
14	<p>私はお茶の水女子大学が国内有数の国立女子大学として、女子教育において強いリーダーシップを発揮することを期待する。そのために、様々なジェンダーギャップをなくしていくためにも、まずは女性の理系教育の推進を目指す取り組みが必要だと思う。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 4. お茶の水女子大学の果たすべき社会的役割について、あなたのご意見をお聞かせください。

番号	質問事項
1	お茶大の果たすべき社会的役割は、女性研究者を輩出し、女性リーダーを育成することだと考える。日本最高峰の女子大であるからこそ、多様な分野で女性が活躍し、挑戦し続ける力を培えるような教育や支援を提供することが、お茶大の役割であると考えている。
2	女性にとって勉学を学ぶこの上ない環境を提供するという点だけでなく、「ジェンダーを社会に問いかける存在」であることが社会的意義を持つように思われます。女子大学、とりわけ国立の大学であるお茶の水女子大学は、なぜ学生を女性に限定するのか、という社会の眼差しを避けて通ることはできず、現状もそのような視点から度々関心や批判を集めているものと認識しております。存在そのものが常に社会に対してジェンダーにまつわる議論を提示し続けることを利用して、敢えて「不自然」で特殊な環境を作り出している女子大学内では、どのようなことが起きているのかに自覚的になり、社会の常識とされることの相対化して行くことが、国立大学で、女子大学でもあるお茶の水女子大学の社会的役割であると考えます。 現在、お茶の水女子大学では社会で求められるようなリーダーシップを備えた存在を輩出することを目的に様々な取り組みを行なっておりますが、社会一般に受容されている主導権を握ることや、指導的な立場に結び付けられたリーダーシップだけではなく、お茶の水女子大学は「サーバント・リーダーシップ」などの社会常識とは異なるようなものへの関心を持ってきたと認識しております。特殊な環境であるからこそ、こうしたあらゆる価値の相対化を行える可能性を持っているのではないかと感じております。
3	大きく二つあると考えます。第一に、女性が夢の実現のために役立つ知識やスキルを身につけられる学びの場として機能していてほしいと思います。第二に、性別に関係なく誰もが活躍できる社会の実現に向けて、社会課題とその解決策について考える研究機関として、社会変革の起点となる役割を果たしてほしいと思います。
4	女子大学の意義が問われる現代、お茶の水女子大学は女子大学としてしか成し得ない形での学生の育成を実現しているため、その説明責任を担っているとも考えています。お茶の水女子大学が女子大学だからこそ成し遂げてきたこと、たとえば理系分野の女子学生の育成や、女子大ならではの研究、アカデミック人材の育成と子育て支援の両立など、お茶の水女子大学ならではの取り組みを、女子大学以外の場でも活用されるようにより広く外部に向けて紹介しすることが重要な役割ではないでしょうか。



## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 4. お茶の水女子大学の果たすべき社会的役割について、あなたのご意見をお聞かせください。

番号	質問事項
5	学問の追求や社会課題の解決に貢献したいと望む女性たちが自信をもって進路を切り拓いていく上でロールモデルとなるような、世界で活躍する女性人材の育成・輩出が望まれると思います。女性の社会進出における、職種による男女比の偏り・働きやすさ・環境の改善を先導することが、お茶の水女子大学の重要な役割だと思います。また、全ての女性が気兼ねなく学問をどこまでも追求できる物的・心理的環境を提供することも重要だと思います。
6	3.でも記述した通り、女子学生が学びたいことを学びやすい環境で学べる場を提供することではないかと考えます。お茶の水女子大学だけであらゆる学問分野を網羅するのは難しいと思いますが、すべての女性が本当に学びたいことを学ぶ道を選択できる社会になるよう導いていく存在であってほしいと思います。
7	女性が活躍する道を切り拓くだけでなく、共感性、協調性、長期的な視点といった、従来のリーダーシップ像には含まれにくかった新しい形のリーダーシップを研究・教育し、社会に提示すること。
8	女子大の代表として、女性が社会的に活躍しながら人生の豊かさも手に入れるためにはどのようなライフプランを立てたらいいかという面の学びの機会を増やすことを希望する。ここでいう人生の豊かさとは、必ずしもそうとは限らないが、主に妊娠出産、子育てのことを指している。例えば女性が利用できる制度の紹介や、就職活動の際にどのような基準で選んだらよりライフプランが立てやすいかなど、女性であるからこそその悩みはあると考えているため、その点に寄り添ってもらえる授業やイベントを多く開催してもらいたいと考える。



## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 4. お茶の水女子大学の果たすべき社会的役割について、あなたのご意見をお聞かせください。

番号	質問事項
9	男女共同参画社会の実現に貢献することであると思う。従来の男性像を女性に適応するということではなく、これまで女性が担ってきた役割と男性が担ってきた役割を柔軟に分担し、双方にとって無理のない新たなキャリア像を提案していくことが、国立の女子大としてお茶大が果たすべき社会的役割なのではないかと考える。
10	お茶大が果たすべき社会的役割は、多様な女性が自分のペースで学び、人生のどの段階からでも社会に主体的に関われるよう支えることだと考えます。現代は人生100年時代と言われ、学びとキャリアを一度で終えずに、何度でもアップデートしていくことが当たり前になりつつあります。多様な背景を持つ学生を受け入れ、広い受け皿を持つ女子大学は社会にとって貴重な存在です。誰もが安心して学び、新たな一步を踏み出せる環境を整えることは、お茶大だからこそ果たせる役割だと感じます。 また近年、共創工学部の新設など、お茶大では文理の枠を超えた学びが進んでいます。異なる分野をつなぎ合わせて社会課題に向き合う姿勢は、所属組織や役割に囚われず、一人ひとりが自分なりの形で社会に関わる、これからの時代に必要な力を育てるものです。各自が自分の価値観や関心を軸にして、主体的に行動できる人を育てることこそ、お茶大の特徴であり強みだと考えます。 お茶大が女性の学びを一生涯支え、文理を横断する知を社会に還元し、多様な女性がそれぞれの場所で活躍できるよう後押しすること。これこそが、これからのお茶大が果たすべき社会的役割だと考えます。
11	社会、ひいては国際社会で活躍できる女性リーダーの育成および支援。
12	一般的な大学ではまだまだ理系学部における女性の割合が低くなりがちな現状を踏まえると、お茶の水女子大学は、女性が性別による差異や不便を感じることなく理系の学問に励むことができる場として貴重であると感じる。そのため、今後も女性が性別による障壁を感じずに様々な学問に取り組むことのできる場所であってほしい。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

### 4. お茶の水女子大学の果たすべき社会的役割について、あなたのご意見をお聞かせください。

番号	質問事項
13	建学の頃から、日本の女子教育を先導してきたお茶の水女子大学には、社会で活躍する女性リーダーを育成する使命があると考えます。男子がいないからこそ、特定の役割に縛られることなく、学生一人ひとりが自らの信じた道を突き進むことができることが本学の特徴の一つといえよう。果敢に挑戦しより良い社会を切り拓いていく女性を育てることがお茶の水女子大学に求められる役割なのではないでしょうか。
14	お茶大は女性の社会参画推進の役割を果たすべきだと思う。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

5. あなたがもし将来学長になったら、お茶の水女子大学をどう変えていきたいか、あなたなりのビジョンを教えてください。

番号	質問事項
1	もし将来お茶大の学長になったら、学びと生活の両面で学生を支える大学を目指し、多方面から改善に取り組みたい。まず、（難しいことは承知上）学生の経済的な負担を軽減し、研究を続けたい学生が安心して学べる環境を整えたい。また、女子大ならではの特性を生かし、大学構内の施設を充実させる（ジム設置）ことで、心身の健康を保ちながら学べる環境を提供したい。さらに、他大学や海外の研究機関との連携を強化し、学生が広い視野をもって学べる機会を増やすことで、お茶大をより開かれた学びの場にしていきたい。上記をはじめとする取り組みにより、大学としての魅力を高め、志願者の増加にもつなげたいと考える。
2	大学内の制度や環境には現状で非常に満足しているため、何か変革を起こすとしたら、お茶の水女子大学の対外的なイメージの修正に取り組みたいです。女性しかいないことで、望まない形で欲望の対象となっていたり、女子大イメージの負の側面での印象が強かったりと、大学内での満足度と、大学外からの承認や評価を得られない、といったところで乖離を感じてきました。確かに、真面目で落ち着いた方が多く、その雰囲気で大変満足しているのですが、それだけではなく、想像よりアクティブで、有能な方が多い、ということ、個人的には女子大学の中の一つとして語られるのではなく、「お茶の水女子大学」としての確かなイメージがより一般的になるようにしたく存じます。学外の先生方からは、レポート課題への取り組み方などを褒めていただくことが多いので、お茶の水女子大学の学生が当たり前に行なっていることが、対外的に見たら素晴らしいということもたくさんあると思います。「女の花園」としてのイメージではなく、こうしたイメージを発信していきたいです。
3	大学内のリソースが無駄なく最大限生かされるようにしたいです。大学には学生のために有用な機関や支援・制度などが多々あると思いますが、現状では学生がそれらを十分に認知していなかったり、利用したいと思っても何らかの制度上の不便さを感じていたりなどの課題があると、過去の学生懇談会での意見を讀んだり、四年間大学で過ごしたりした中で感じています。大学では資金や人員などに限りがあるからこそ、各種手続きや情報の周知方法について見直しを図り、無駄を削減し効率化を目指すことで、大学内のリソースが今よりも有効活用されるようになり、大学全体が活気づけばよいと思います。
4	お茶の水女子大学の校風を守りつつも革新的取り組みを重ねる。学生として感じるのは、お茶の水女子大学の長所が伝統を重んじるところであると同時に、保守的なところが短所であるということです。学生にもその雰囲気が浸透していて、真面目に先生の話聞き真摯に課題に取り組む点が学生の良いところでありながら、拳手をして先生に質問をしたり発言をしたりする学生がいないなど、出る杭は打たれる心理的拘束があるように感じます。学内における学生の活動についても、大学側の保守的な制約が多く、それによって学生の自主的な活動や議論の場が阻まれていると感じます。お茶の水女子大学の堅実さ、勤勉さを守りつつ、常に新しい取り組みの導入を検討し、伝統を守りつつ新しい風がそよぐお茶の水女子大学を目指したいです。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

5. あなたがもし将来学長になったら、お茶の水女子大学をどう変えていきたいか、あなたなりのビジョンを教えてください。

番号	質問事項
5	<p>今後は社会のデジタル化が進行して多くのことやものがデジタル・AI活用へと移行していくことが予想されると思います。しかしAIは創造的なものを生み出すことはまだ不得手であるとされているため、私は将来、人間の思考による活動の価値が重要視されるようになると考え、お茶の水女子大学の小規模で自立した学びが出来る環境を活かして、AIも知らない未知の事象を発見し社会課題を平和的に乗り越えていくための思考・探究持久力を身に着けた人材の育成を行う大学にしていきたいと考えます。</p>
6	<p>総合大学としては学生数が少なくても、学生の間で交流が盛んで、授業や研究にとどまらない挑戦が活発に行われるように変えていきたいと思います。</p>
7	<p>卒業生が、学生のキャリアメンター・共同研究者や授業の共同設計者として大学での教育活動に巻き込むためのデジタルプラットフォームと制度を構築する。これにより、大学の教育・研究の質を常に社会の最先端に保つことが期待できる。</p>
8	<p>対面授業にこだわることなく、対面、オンライン、ハイブリッド授業それぞれの良さを活かした学習環境を提供する。学びたいけれど大学に通うことができないハードルを下げ、学びたいと考える全ての女性に寄り添った大学になるよう努力する。また経済的支援や心理相談体制を拡充させる。現在も奨学金制度が存在しているが、学ぶ意欲のある学生をサポートする体制の拡充を試みる。さらに多様な考えを取り入れてもらうためにも留学生の受け入れや留学制度の拡充を行う。また留学する前の語学学習について、現在提供してもらっている英語のプログラムは費用がとても高いので、例えばオンライン英会話を特別価格で提供するなど、よりリーズナブルな価格で語学学習を楽しんでもらえるようなプログラムを取り入れ、積極的に語学を学ぶことができる体制を整える。</p>

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

5. あなたがもし将来学長になったら、お茶の水女子大学をどう変えていきたいか、あなたなりのビジョンを教えてください。

番号	質問事項
9	3つ目の質問への回答にもあるように、地域に開かれた学びの場としての側面をさらに強化していきたい。本学に入学してくる女性は、社会に生きる様々な女性の中のごく一部である。すべての女性に貢献するためには、多様な経験や立場を持つ女性が本学と関わる機会を増やすことも意義があるのではないだろうか。
10	もし私が学長になったら、お茶大を「日本の文化を深く理解し、その価値を世界へ伝えられる女性を育てる大学」へと発展させたいと考えます。グローバル化が進む現代において、海外との連携や国際志向が重視されがちですが、世界と対等に向き合い、他者との違いを理解するためには、まず自分自身の文化を理解し、語れる軸を持つことが不可欠です。国立の女子大学であるお茶大だからこそ、日本の歴史・文化・精神性を大切に、それを誇りとして持てる人材を育てることに大きな意義があると思います。私は「日本文化への深い理解」と「女性の知性」を掛け合わせることで、お茶大から世界に新しい価値観を発信できると信じています。日本文化を尊重し、自らのアイデンティティに誇りを持てる女性が世界とつながっていく。そんな未来を目指したいです。
11	理念や教育方針を変えることはしないが、キャンパス内の雰囲気をもう少し明るくしたい。必要以上に生い茂ってしまっている植物を少し減らしたり、古い建物を修復したりなどを現在の優先順位よりもあげたい。
12	定期購読する論文雑誌の種類のさらなる充実など、基本的な研究環境の向上に取り組み、学生がより不自由なく学問・研究に取り組めるようにしたい。

## 第2回学生懇談会 「お茶大の未来」に関する意見交換

5. あなたがもし将来学長になったら、お茶の水女子大学をどう変えていきたいか、あなたなりのビジョンを教えてください。

番号	質問事項
13	<p>「変える」というよりも、まずは今あるお茶の水女子大学の良さを守ることを大切にしたい。少人数でありながら、知性と思いやりに溢れた学生が集う本学は、主体的に学びを楽しめる環境が整っている。その強みを最大限活かしながら、以下のような取り組みを推進したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 留学制度のさらなる充実化</li> <li>・ 社会課題解決を企業・地域と協働しながら実践できる機会の拡大</li> </ul> <p>女子大学としての強みを活かし女性支援を行ってだけでなく、男女両性や国内外の人材など異なる立場の人々が互いを理解し手を携えていけるような社会を実現するための試みを実践していくことも、一つの女性支援のあり方であると考えます。</p> <p>学生一人ひとりに、「あなたの未来は希望に満ちている」と伝えられる学長でありたい。</p>
14	<p>文系理系の垣根をこえたリベラルアーツ教育のより積極的な推進を進めたいと思う。私自身、お茶の水女子大学での勉学を通して、今まで関心のなかった様々な学問分野を知り、より学びを深めていきたいと思うようになった。しかし、お茶の水女子大学で学ぶことができる学問の幅は未だに狭いと思う。（留学を通して、学問分野の幅が非常に広いことを知った）だからこそ、今後リベラルアーツ科目の授業科目の内容充実にも努め、外部の教授も招き、幅広い学問分野を知る機会を学生に提供したいと思う。そして、総合型入試による入学後の専攻決定をすることも一つの案として提案したい。</p>